平成22年度防衛調達審議会　サンプリング調査審議実施状況　　別添

（随意契約等に係るサンプリング調査審議、1者応札・1者応募案件に係るサンプリング調査審議での主な指摘事項等）

開催回	対象機関	審議区分	契約方式	契約件名	主な指摘事項等
第85回（22.5.26）	装備施設本部	随意契約等に係るサンプリング調査審議	随意契約	・「高速標的機CHUKARⅢ」 ・「高速標的機CHUKARⅢ（低高度形）」 （概　　要） ・　本2件の契約は、海上自衛隊において対空射撃訓練用の標的として使用する高速標的機CHUKARⅢ及び高速標的機CHUKARⅢ（低高度形）を調達するものである。 ・　CHUKARⅢにおいては、製造会社の生産管理改善により原価低減が可能となったことから、同社からの提案を踏まえ、平成21年12月にインセンティブ契約の適用がされた。本2件の契約は、インセンティブ契約の適用後、第1回目の契約であることが特徴である。 ・　インセンティブ契約制度については、より実効性の高い制度とするため、企業の独自の技術等の改善に限らず、設備投資や生産管理の改善等、様々な原価改善を対象に加えるとともに、金額面でも各年度のインセンティブ配分率を柔軟化するなど、制度全体を見直した新制度を平成20年10月より導入した。 ・　本2件の契約は、新制度のもと第2例目の採用であり、5年間で約2千万円程度のコスト低減となる見込みである。	○　前年度実績落比（計算価格に対する落札価格の比）の見直しにより、インセンティブ契約制度の適用により調達価格の低減が図られると考えるが、調達価格として原価改善の効果が十分に現れていないのではないか。 ○　もっと広く、そして数量のある契約においてインセンティブ契約制度が適用されるようになることが望ましい。そのためにも、本件での採用実績をPRするなど、採用例の拡大に積極的に取り組んでほしい。
＊＊第86回において審議		1者応札・1者応募案件に係るサンプリング調査審議	一般競争（不落随契を含む）	（1者応札） ・　ブルドーザ ・　半長靴3型 ・　3　1／2tトラック ・　1／2tトラック ・　電波探知妨害装置NOLQ－3D＊＊ ・　衛星通信役務＊＊ ・　収集システム　GRQ－59＊＊ ・　US－2用エンジン（AE2100J・搭載用）＊＊	【半長靴3型、3 1／2tトラック、1／2tトラック】 ○　半長靴3型（95,560足）、3 1／2tトラック（281両）、1／2tトラック（529両）はいずれも防衛装備品の調達の中では比較的まとまった数量での発注を行っているものであり、複数者の応札を引き続き期待したい。 ○　しかしながら、これら3品目とも1者応札とならざるを得ないのは、いずれも程度に差はあるものの、専用の製造設備を必要とするため、過去から継続して受注している社が契約履行に当たっての優位性を有していることが理由として挙げられる。 ○　これまでにも、競争性の拡大に努めた公告期間や履行期間の設定を行ってきたとのことであるが、専用の製造設備を有するようなものへの新規参入の場合、業者は早期から設備投資等の計画を行う必要がある。公告期間や履行期間の確保に加え、年間の調達計画を広く案内するなどし、引き続き、競争性の拡大に努めていただきたい。
			随意契約	（1者応募） ・　航空タービン燃料JP－4（免税）＊＊ ・　無人偵察機システム＊＊ ・　YS－11機体定期修理＊＊（2件） ・　155mmH、M107りゅう弾＊＊ ・　91式105mm多目的対戦車りゅう弾＊＊ ・　203mmH、M106りゅう弾＊＊	特になし

開催回	対象機関	審議区分	契約方式	契約件名	主な指摘事項等
第86回（22.7.21）	技術研究本部	随意契約等に係るサンプリング調査審議	随意契約	・「火力戦闘指揮統制システムの技術的検討及び形態管理作業（その1）」 （概　要） ・ 本契約は、試作品の技術試験の進展に応じて、官側から適宜通知される要改善事項に対して技術的な検討（技術的検討）を行うとともに、この結果、改善処置を実施する場合に、試作品の設計書・図面・取扱説明書等について、形態履歴の情報管理（形態管理）作業を行うものである。 ・ 本件では、技術試験において要改善事項が発生した場合に、要改善事項の技術的検討を行うための契約を事象の発生後に結ぶのではなく、あらかじめ包括的な契約として締結することにより、技術的検討に着手するまでの期間の短縮が図られることが特徴である。	○ 技術的検討及び形態管理作業を包括的な契約として締結することについて、費用面での適正性を説明できるようにしておく必要があるのではないか。
第87回（22.9.15）		1者応札・1者応募案件に係るサンプリング調査審議	一般競争（不落随契を含む）	（1者応札） ・ 各国の防衛技術に係る研究活動等の調査 ・ 被弾主翼廃棄処分 ・ 物品管理システムに係る運用管理支援役務 ・ 技本研究開発支援システムの運用支援役務 ・ 潜水艦の概略設計に関する検討資料作成（その2） ・ 潜水艦の概略設計に関する検討資料作成（その4）	【被弾主翼廃棄処分】 ○ 被弾主翼廃棄処分について、同種の廃棄物処分の契約は過去にもあったと思われるが、その入札状況はどうであったのか。競争性はあったのか。（第88回審議会において同種の廃棄物処分の契約状況について報告済み） 【「物品管理システムに係る運用管理支援役務」及び「技本研究開発支援システムの運用支援役務」】 ○ システムの保守契約のようなものであれば、製作会社以外に門戸を広げるというのは、実際には難しいケースも多々あると思う。現行では、製作会社でないと対応困難な役務（システムのセキュリティー対策及びシステム監査への対応の役務）と製作会社以外でも対応できる役務を分けて契約することによりシステムに関与する業者が増えることとなるが、セキュリティー面に問題はないのか。分けて契約する方式の導入にあたっては、価格の低減とその他のリスクを総合的に評価し検討されたい。
			随意契約	（1者応募） ・ トラッキングコントローラー他5品目 ・ Φ800mmシュリーレン窓ガラス（250mm厚） ・ 三音速風洞装置の点検整備 ・ 燃焼風洞装置の点検整備 ・ 高速風洞の移設 ・ 次期輸送機の一体化検討 ・ 次期固定翼哨戒機用エンジン試験（部品試験）のうちコンテインメント試験に係る組立・搭載及び撮影作業	特になし

開催回	対象機関	審議区分	契約方式	契約件名	主な指摘事項等
第87回（22.9.15）	陸上自衛隊	随意契約等に係るサンプリング調査審議	随意契約	・ ①「陸自指揮システム用ソフトウェア（平成21年度改修（その2））」 ・ ②「陸自指揮システムソフトウェアの野外系への一部適用（その4）」 （概　要） ・ 本2件の契約は、中央システムの換装にあわせて、陸自指揮システムの独自部分等の改修を実施する役務請負契約である。 ・ 陸自指揮システムの改修のうち、上記①の契約において【固定系】の改修を実施し、上記②の契約において【固定系】での改修を【野外系】に適用するとともに、更にその下部に連接する他システムとの接続を引き続き維持できるよう送信データ形式の変更等の改修を実施する。 （参考） 【固定系】･･･システム端末を駐屯地等内の事務室等において固定して使用する系統 【野外系】･･･システム端末を車両のシェルタ等に搭載し、野外に展開して使用する系統	○ システムの改修時期（金額を含む）の全体スケジュールについて、回答されたい。
					○ 中央システムに繋がる海自及び空自のシステムについても本件と同様の改修が行われているものと思われることから、海自及び空自のシステムの改修費用についても確認し、陸自の改修費用の検証を行うべきである。 （中央システムが改修されたことにより、中央システムに繋がる各自衛隊のシステムの改修が行われたのであれば、海自及び空自のシステムの改修と比較することにより、陸自指揮システムの改修経費の妥当性を分析することができると思われる。3自衛隊のシステムは元々システムが異なり、メンテナンスも異なることから、経費が同額である必要はないが、それら経費の差異を比較・分析することにより、ソフトの開発はどの社が安価か、ソフトの開発やメンテナンスは3自衛隊のうちどこが効率的に行っているかなどが分かる可能性もあるので、比較・分析を行うようお願いしたい。）
					○ 予算要求の平準化等の配慮から、陸自指揮システムの改修事業の予算を毎年度ほぼ定額で予算要求し、執行しているようであるが、改修の必要性に応じたメリハリの付いた執行等に努めるべきである。
					○ 原価監査実績を踏まえた予定価格の算定をしているとのことであるが、企業側の効率化の努力が十分でない可能性がある。
					○ 原価監査により価格の正当性を確認しているとのことであるが、成果物にはその価格の価値があるのか、プライス感覚を持って価格の決定を行うべきである。ソフトウェアに関しては、ステップ数を確認するなどにより、成果物の価値と実績原価との双方から価格の検証に努めるべきである。
					○ 製造原価の大部分を占める下請負会社（関連会社を含む。）に対し、原価監査を実施していないのでは原価監査の本質をなさないのではないか。
	次頁へ				○「開発調整会議」について、8回実施し、更に会議の事前説明等も頻繁に実施するなど防衛省側にコスト意識がないことがうかがえる。会議の実施の必要性を十分に検討した上で、必要以上に会議を開催することのないよう意識を改めるべきである。

開催回	対象機関	審議区分	契約方式	契約件名	主な指摘事項等
第88回（22．10．20）	前頁から	1者応札・1者応募案件に係るサンプリング調査審議	一般競争（不落随契を含む）	（1者応札） ・ スリーピングバッグ、野外一般用 ・ スリーピングバッグ、一般地用 ・ エアーマットレス ・ 送水ホース　他1品目 ・ 救急絆創膏　他57品目 ・ ドラム缶外部洗浄装置2型　他6品目 ・ 位置座標標定装置【2件】 ・ 地上無線機3号　他1品目【2件】	【「スリーピングバッグ、野外一般用」、「スリーピングバッグ、一般地用」及び「エアーマットレス」】 ○　防炎加工など特別な仕様があるにしても、ベースとなる市販品の価格との比較を行い調達価格の妥当性を検証すべきである。
	陸上自衛隊				【ドラム缶外部洗浄装置2型　他6品目】 ○　契約した者は本件について6か月で製造可能であり、その他の者は製造に8か月を要することが分かったとのことであるが、実績のある事業者以外に対しても広く業態調査を行い競争性の拡大を図るべきである。また、事業者間の製造に必要な期間の差異についても確認するべきである。
			随意契約	（1者応募） ・ ECU　他49品目 ・ ケーブル延長装置　他3品目 ・ モニタ1　他18品目 ・ プロジェクタ取付金具（89R）　他19品目 ・ 放射性廃棄物廃棄の部外委託 ・ 155mmりゅう弾砲FH70“オーバーホール”　他17件	【ケーブル延長装置　他3品目】 ○　カタログ価格や実績値引率を確認しているとのことであるが、それを妥当と決めつけるのではなく、カタログ価格や値引率そのものが妥当であるかについて調査をすべきである。

開催回	対象機関	審議区分	契約方式	契約件名	主な指摘事項等
第88回（22.10.20）	航空自衛隊	随意契約等に係るサンプリング調査審議	随意契約	・「T－7の委託整備」 （概　　要） ・T－7航空機は、航空自衛隊においてパイロットが最初に操縦訓練を受けるために使用することを目的とし、平成15年度に導入されたプロペラ式の固定翼機（初等練習機）である。 ・本件契約は、基地においてT－7航空機に対し定期的に実施する検査及び定期交換品目の交換並びにその関連器材の基地整備を外部委託する役務請負契約である。	○　富士航空整備㈱の経費率の妥当性について、富士航空整備㈱と同様の防衛省との取引のウェイトが高い事業者とを比較しても、基本的に同じコスト構造であるため、客観的な分析とは言えない。統計データなどの客観的なデータを基準に比較・分析するべきである。 ○　防衛省との取引が大半の事業者の利益水準については、難しいとは思うが検討が必要ではないか。 ○　利益は複合的な結果であるが、経費の査定が甘い結果として出る場合もある。利益が出ることが悪いことではないが、防衛省として経費が効率的であるかについて、経費の中身をしっかり確認する必要がある。 ○　本件は、航空自衛隊が自ら行っていた業務を民間の事業者が基地内で行うものであり、かなり特殊な業務委託と思われる。労働災害が起こった場合など労働関係のあり方も含め整理していただきたい。
		1者応札・1者応募案件に係るサンプリング調査審議	一般競争（不落随契を含む）	（1者応札） ・　補給処保管業務の部外委託 ・　トナーカートリッジ外444品目 ・　トナーカートリッジ（ブラック）外682品目 ・　早期警戒管制機及び空中給油・輸送機操縦者用シミュレータ訓練の委託 ・　B－747一等航空整備士の養成委託教育（19年度開始分3／3） ・　磁気テープ外2品目	特になし
			随意契約	（1者応募） ・　JASDF　COMMON　FRONT　FRAME　ENSIP外73品目 ・　CLAMP, TUBE外176品目 ・　COVER, COOLING外8品目 ・　NUT, SLF－LKG外19品目 ・　BEARING　BALL外16品目 ・　JFS＃1　KIT外1品目 ・　TEE, ADAPTER外37品目	特になし

開催回	対象機関	審議区分	契約方式	契約件名	主な指摘事項等
第89回（22.11.17）	海上自衛隊	随意契約等に係るサンプリング調査審議	随意契約	・「イージス武器システム国内技術支援」 （概　要） ・ イージス武器システムとは、イージスシステムとその他の関連システム等で構成される総称であり、イージスシステムは、主としてSPY－1Dレーダー、情報処理装置、垂直発射装置から構成されている。 ・ イージス武器システム国内技術支援契約とは、米国からFMSにより調達したイージス武器システムについて、維持整備及び改修等を適切に実施するために必要な技術支援を日本国内で実施するための役務請負契約である。	○ パフォーマンスを定量的に評価していないようであるが、相手方の作業のパフォーマンスを適切に評価すれば、見積額と契約額の大きな乖離はなくなるのではないか。 ○ 防衛省関係の業務が殆どの会社については、決算書などを確認し、損益状況や事業別（防衛関係事業と民間事業など）の損益状況等を比較分析するなどし、変化や差異が大きな点などあれば、詳細な分析を行うべきである。
		1者応札・1者応募案件に係るサンプリング調査審議	一般競争（不落随契を含む）	（1者応札） ・ 航空機部品（エンジンO／H用）BLADE COMP06ほか17品目 ・ 航空機部品（エンジンO／H用）SEGMENT ほか13品目 ・ 指向性拡声装置，大ほか1件 ・ 航空機部品（エンジンO／H用）HOSE ASSY ほか13品目 ※ O／Hとは、オーバーホールのことを指す。	【「航空機部品（エンジンO／H用）BLADECOMP06ほか17品目」及び「航空機部品（エンジンO／H用）SEGMENT ほか13品目」】 ○ 年度末に集中的に調達する場合、予算消化ではないかと見られるため、計画的に調達できるのであれば、年度末に集中することがないよう計画管理を徹底されたい。 【指向性拡声装置，大ほか1件】 ○ 今回は調達期間が短かったため仕方がないが、今後は、価格の検証を行うためにも原価計算をするなどの検討が必要ではないか。
			随意契約	（1者応募） ・ 武器等用部品（輸入品）「深深度機雷探知機AN／SQQ－32用ACOUSTIC DEVICE, MINE SWEEPING」 ・ 高性能20mm機関砲 管制部オーバーホール （7件） ・ 武器等用部品（輸入品）「高性能20mm機関砲用 BLOCK1 BASELINE2 AND HIGHER CLASS A OVERHAUL KIT」 ・ 武器等用部品（輸入品）「測定装置 NYSM－3用VLF HF VHF UHF RECEIVER」外 ・ 潜水艦用防振管継手 HOSE ASSY, RUBBER 外	【潜水艦用防振管継手 HOSE ASSY, RUBBER 外】 ○ 公募条件に規定している技術提携について、応募時に既に技術提携を有している者から、契約履行時までに技術提携を有する者に条件を緩和するのであれば、公募期間についても延長するよう努められたい。